

【1】大好きな男の子。その夢。そして私にできること。

私には、好きな人がいる。
幼馴染の男の子で、絵を描くのが好きな穏やかな人だ。

小さい頃、引っ込み思案な私はよくいじめられて泣いていたけど、
それをいつも慰めてくれたのが彼だった。
私が望むと、彼はどんな絵でも描いてくれた。
彼の持つ筆は魔法のようで、そこから描き出される”世界”に、私の心はすぐに夢中になった。
いじめられて悲しかった気持ちなど、どこかへ行ってしまっていた。
そして、彼の絵を見て笑顔になる私を見て、彼もまた柔らかな笑みを浮かべる。
そんな優しい人のことを、好きにならないはずがなかった。

今、彼には画家になりたいという夢がある。
それは決して夢で終わらないことだと、私は知っている。
実際、彼は絵で何度も有名な賞をとっていたし、素人目に見ても彼に才能があることはずっと昔から分かっていたことだった。
だけど、彼には画家になる勉強をするだけのお金がなかった。
才能も実力もあるのに、それだけが彼には無かったのだ。

当然、ただの学生である私はその問題を解決することはできない。
私なんか、本当にただの凡人なのだから。

だけど、転機は突然訪れた。
この町出身の唯一と言ってもいい有名人。
稲橋悟道という画家が、彼の絵を見て自分のもに來ないかと誘いに來たのだ。
その日は文化祭当日で、偶然にも私はその誘いの場に居合わせた。
彼は面食らって何も言えずにいたけど、私は心底安堵していた。
これで彼の夢が叶うのだ、と。

だけど、そう甘くはなかったらしい。
後日、学校で会った彼から聞いた話では、稲橋さんの元で勉強するとしても、専門的な学校に行くほどではないにせよお金は必要なのだという。
そして、どうやらそのためのお金すら、彼の家には重すぎる出費らしい。
彼のお婆ちゃんは気にしなくていいと言っているらしいけど、優しい彼は唯一の肉親にだけ重荷を背負わせるような選択はできないだろう。現に、彼は諦めるつमりのようだった。

私は何も言えず、そうして時間が過ぎた。
部活に行く気もわからず、一人でぽつぽつと帰り道を歩いていると、後ろから男の人に声をかけられた。
振り向くと、そこにはあの稲橋さんが立っていた。
私はたまらず、稲橋さんに頼み込んだ。

「彼は才能も、実力もあります！不躰なお願いだとは思いますが.....どうか稲橋さんの力で、彼に勉強をさせてあげてください！！」

大人の男の人にこんな風に大声で何かを言うなんて、普段の私では考えられないことだ。実際、足は震えているし、緊張で声も上ずっていた。
けど、そんな私の気持ちより、彼の夢を叶えたいという思いの方が大事だった。

「そうか。君は彼のことを心から応援しているのだね。であれば、僕から君に提案がある。君に声をかけたのは、その為なんだ」

そして、稲橋先生は私にその提案を告げる。
とてもびっくりしたけれど、でも、それで彼の夢の助けになれるなら……

そう思って、私は頷いた。

稲橋先生が私に告げた提案は一つだけ。

「僕と性交して欲しい」

それだけだった。

とはいえ、それは到底まともな提案とは言えないだろう。

先生は今、少女を題材とした絵を描いていて、そのモデルとして私がイメージぴったりなのだそう。

それは分かったが、何故そんなことを私に……と聞くと、「僕は完璧主義なんだ。モデルのことは全てを知っておきたい。性交はその手段の一つなんだよ」と、先生は答えた。
同時に、「君が僕を助けてくれれば、僕も彼を助けてあげられるんだけど」とも。

普通ならそんな提案、乗るはずがない。
だけど、私にできることを考えたら、それぐらいしか思いつかなかった。
ああ、むしろ、これはチャンスなのだ。
何もできないはずの私が、彼の助けになれる唯一の機会。
私を慰めてくれたあの優しく柔らかい微笑みに報いる為の……。

【2】提案

えっと……私が先生の作品のモデルとして言う通りにすれば……
彼の絵の勉強の支援していただけるんですよね？

……っ

分かりました。彼の為なら私……何でもします。何でも……できます。

どうしてそこまで、ですか？

それは、彼が私を救ってくれたからです。

彼がいたから、私はつらい気持ちや悲しい気持ちに負けずにいられた。

でも、私には彼を助ける力が無い……

だから、私にできることがあるなら何でもしよう、って……決めていたんです。

え？彼のことが好きなんだね、って……

はい……そうです。

私は、彼のことが……んっ！？むううっ！？

(先生は遮るように私の唇を奪った。ファーストキスの感慨も無いまま、先生は容赦なく私の口内に攻め入ってきた)

んん～～うっ！？んっ！？むむう～～っ！！

ふっ……！んぐ、んむ……っ！！

～～～つぶあっ！

い、いきなり何するんですかっ！？

……っ！別に……嫌なわけじゃ……ありません。

(嘘だ。本当は逃げ出したいくらい嫌だった。だけど、下手なことを言って不況を買うわけにもいかない)

……はい。今のが、ファーストキスです……

え？服を脱いで、自己紹介、ですか……？

……分かり、ました。

あ、安中……志織、です。

二年生で、部活は文芸部に所属しています。

背丈は普通で……む、胸は……あまり。

はい、無い……です。

あ、あの……これって……？

……続けろ、ですか。

はい……

異性と付き合ったことはありません。

でも、好きな男の子は……います。

はい.....先生が知っているあの子です。

お、オナ.....っ！？

.....っ、はい.....あります。

頻度.....？そ、そんなことも言わないといけませんか？

等身大の少女を知るためだ、って.....うう.....

オ、オナニーの頻度は.....週に1回か、2回くらいです.....

オカズ.....？晩ごはんのことですか.....？え、違う？

何を考えてオナニー、するか.....っ！？

う.....はい、そ、そうです。

好きな人.....彼のことを考えながら、オナニー.....しています。

っは.....はあ.....はあ.....

あの.....もう.....許して、ください.....

恥ずかしくて、私っ.....

んっ！？

ふっ.....ふわあっ.....！？

(し、舌が.....先生の舌が私の舌に絡みついて.....！？)

ぷはっ.....はあ.....はあ.....っ！

(息が苦しい.....でも、今の.....)

むあ.....っ！ん.....ちゅう.....

(少し.....気持ちよかった.....)

ちゅば.....れろ.....んっ.....！

はい.....き、気持ち.....いい、です.....

もっと、舌を出せ？

はい.....んれえ.....っ

ん！？んん〜〜〜ッ！？

ひいっ！？いいいっ！？

せ、せんせ.....い、今の.....！？

ひ、舌.....っ！

こ、今度は私が、先生に.....ですか？

う.....は、はい.....

ちゅう.....ずちゅううう.....

.....っは、もっと、激しく、音を立てて.....？

……うう、んんっ！
じゅぶっ、ズルルルっ！
ふう……っ！ふっ……うう……

(先生の舌を吸うことで、否応なしに先生の……男の人の唾液が私の中に入り込んでくる。
知らない味に、知らないにおい。
私……何、してるんだろう……？
そう、これは……彼のため……彼の夢を、私が叶えるんだ……
先生は、絵のためだって言ったけれど、私だって何も知らない子供じゃない。
意味くらい、分かってる……。

ふと、目を開ける。先生はじっと目を開けて舌を吸っている私を見ていた。
その目に映る色は、“退屈”の一色。
つまらない、という感情が見て取れた。
ああ、ダメだ……！ここで私が飽きられてしまったら、彼の夢が……っ！

だから私は、羞恥心を捨てることにした)

あむ……っ！
ずるるるる～～～っ！！

(これなら、どう……！？)

ぶぽっ！ぶぽっ！ぶぽっ！ぶじゅるるるっ！！

つぶはあっ……！
はあ……っ
はあ……っ！

どう、ですか……っ？
きもち、よかった……ですか？

(先生は私の言葉に口元を歪めて笑うと、今度は私を傍にあったベッドへと押し倒した)

きゃっ……！？
せ、先生……？

あっ、そこは……だ、だめです……！
ひゃんっ！？や……あんっ！
んっ……、ああっ、くうっ……
はあっ、先生の手っ……すごい、自分で触るのと……全然違う……！
いつもより何倍も……ビリビリするう……っ！

へ？四つん這いにですか……？
は、はいっ……

(って、この格好.....あそこだけじゃなくしてお尻の穴も見え.....)

んきゅっ！？

あっ、あっ、せんせっ！先生えっ！？

すごいっ！すごいですうっ！！

やあっ.....な、何かくる.....っ！

きちやいますっ！！

あっ、やっ、んんんっ.....！

ふううううう~~~~ウウン.....ッ！！？

はあ.....

はあ.....

せんせえ.....私、今の.....

い、いつものオナニーだと、こんなになった事.....ないです.....

はあ.....はあ.....っ

今のが、イク、ですか.....？

私、イっちゃったん、ですね.....

はあ.....っ！

ひうッ！？

あ、あの.....！

そこは.....お、お尻の.....！？

んンンっ！？おっ！？ん、ぐうっ.....！？

そ、そんな.....いきなり指.....っ！？

にやあっ！？んにゅっ！？

みやあああああ！？

な、なにこれっ！？なにこれえっ！？

こ、こんなの.....うおっ！し、知らな.....あひっ！

だっ、だめだめッ！だめです先生っ！

私イっちゃいます！とめて！とめてくださ.....あっ！ああ~~！

んっ、つくう~~！んむうう~.....！

ああーっ、だっ、だめですだめです！

あっ、もう.....あっ！

んひいいっ！あっ.....、おおっ.....おあっ.....！！

お.....おおっ.....うお.....

ぐ.....う.....っ.....

ん.....ウホおっ♡

【3】私の本性

(い、今の声.....わ、私が出したの.....?)

せ、先生.....?

あ、あの.....さっきのは、えっと.....違うんです!

へ?お、面白い.....?

あ、あのっ.....!?

んきょっ!?!?

ま、またお尻.....!?

んお...お.....!

お!?おお〜〜〜っ!?おおおおお〜〜〜っ!?

だめだめっ!お尻の穴だめですう〜っ!

ま、またおかしな声でちゃ.....っ!お、おほっ♡

あ、や、やだっ.....!おっ♡うほっ♡

ああ.....やめてくださ.....っひい、んおっ♡おお.....♡

こんな.....私、どうして.....っ!

え?それは君が.....スケベ、だからだよ.....?

そ、そんな、スケベだなんて.....んっ!?

んれろっ♡じゅるりっ、べろべろ.....

(ああ、また舌、口の中に.....)

んむうっ!!?お、ひりっ!?

(や、やだ.....っ!キスされてるのに、お尻の穴弄らないでえっ.....!)

おっ♡あむ、じゅるぶちゅっ♡んおお♡

キスしにやがら.....だめえ.....♡

すごすぎるう.....んちゅう.....♡

れろ〜んっ!おっ♡ぶちゅう〜〜!んへっ♡

キス、すごすぎです.....んれろっ、れろろん!

んはあ〜〜〜っ♡

って、きゃああっ!?

せ、先生.....これが.....男の人の.....っ!

お、お、おちんちん.....♡

こ、これを.....挿れちゃうんですよね.....?

こんなの挿れたら.....私.....

で.....でも、初めからそういう約束でしたもんね.....
.....って、あ、あれ？
先生、そこは挿れる場所じゃ.....！？

んぎっ！？
ンゴおおおオオ——ッ！？！？！？☆♡

はがっ.....！！？
ぐ、うおおっ.....☆
お、おしっ.....おぢりィ.....！？♡
くるしっ.....！せんせ.....っ！
抜い.....っでへえっ！！！？！？

お、オヒィイツッ！！？
あゝっ、抜くのも.....ダメですううう！！
お.....おおんっ♡おゝ.....っ♡だ、ダメだって、言ってるのにィ.....あ、おゝ おっ♡

はあ.....はあ.....♡
え.....？
動かすぞ.....？
いや.....待っ.....ぬおっ！？

おおおおお——ッ！！！！♡
お尻の穴♡ゾクゾクしてっ.....止まらないひいひいっ！♡
うおおっ！？♡おっ♡おおっ♡
んへっ！？お、お尻じゃなくて.....ケツ穴あ.....！？♡
あおおッ！け、ケツ穴ア♡ケツ穴犯されてるううんっ♡

も、もうだめっ.....！
せんせえっ、ほんとダメでしゅっ♡
先生が言ったとおり、スケベになっちゃいましゅ♡
おっほ♡ああ～～恥ずかしいのに♡ゴリラみたいな変な声出ちゃいますっ♡
志織スケベになっちゃうよおお♡んほおっ♡

え.....？恥ずかしがらずに、解放していい.....？
いいんですか.....？ほんとに？♡ああ——私、私い.....っ！

ンおっ！？おっ、おおお.....おおお～～～っ！！
ケツ穴犯されて、イグウウウ————ッ！！

う.....ウッホ——————ッ！！
んっへ♡おへ♡あひひっ♡
変態っ♡変態になっちゃった♡
お尻せつくしゅで変態にされちゃった♡
うおッホおッ！？
あっ♡ご、ごめんなさいっ♡

違いましたっ♡

志織は最初からケツ穴で感じちゃうスケベ女でしたっ♡

ケツ穴ほじられたら、変態スケベな本性丸出しのゴリラ声出ちゃうんですっ♡

ウッホォ♡またっ♡おしりっ♡うオっ♡

おおっ♡おおおん♡

だ、だってケツ穴気持ちよすぎるっ♡

抜き差しされたらっ♡っほォ♡あたま、チカチカって♡

あ.....あは.....♡

もう、本当.....我慢できにやいでしゅ.....♡♡♡

んふう.....んふう.....ッ！♡

ぬ、ぬふっ.....フフッ.....

ウホっ♡ウホホホッ！！

ウッホォ！

ケツ穴ぎもぢっ！ぎもぢい`い`の`オ~~ッ！！♡

ウホッ♡ウホッ♡もう私スケベ”女”じゃないっ♡

こんなみっともない声出してっ♡喜んで感じてるなんてっ♡

ただのゴリラっ♡ケツ穴で感じるただの変態ゴリラだよォっ♡

ウホウホウホッ！ウッホホー——————イッ！♡♡♡

んへへへッ♡

ケツ穴おちんぽっ♡もっと♡もっとお♡

お`っ.....おお`おおお`.....ッ♡♡

パンパンしてっ♡せんせっ♡パンパン、もっと.....お、お`おん♡

ああ.....知らなかった！知らなかったああ！！♡

ケツ穴でこんなになっちゃうなんて知らなかったのお♡

ウッホォ♡

こんなの戻れないウホ♡もう恋する女の子に戻れないよお♡

彼のことより、ゴリラ声出してケツ穴エッチする方が大事になっちゃってるもん♡

おっ♡ウおっ♡

ウホっ♪ウホっ♪ウホっ♪ウホっ♪ウホっ♪ウホっ♪ウホっ♪ウホっ♪ウホっ♪ウホホ~っ♪

あっ！？ぬオァ`っ！？♡

お`、おおお.....イ、イっちゃうウホ！！♡

ほっ♡ほっ♡ほっ♡んっほお♡

イ、イク.....！♡イクイクイグッ♡

ケツ穴交尾でッ♡スケベゴリラ、おけちゅで.....イグウ♡

お♡すっげ♡ウホッ♡マジでっ♡

あっ♡ダメっ♡あんっ♡あっ♡やっべ♡オッ♡ウホッ♡やべっ♡

.....あ、イク♡♡

ヌッッホォオオオオオオオオオオ~~~~~~~~~~~♡♡♡♡♡

うほっ.....♡

ふほお.....♡
ウホホホっ.....

おっ、おへっ.....屁ええ～.....っ♡屁え出たあ～っ♡
う、うほっ、ほ～～～お♡
ほあ.....っ♡